

12 「すべての人々の人権が守られる避難所にするために」（災害発生時の人権）

実践する場面

- (1) 対象者 行政職員、保護者、地域住民等
- (2) 所要時間 90 分

活動のねらい（ポイント）

- (1) 災害発生時の避難所において、様々な困りごとや不安が生じることに気づく。
- (2) 災害発生時にお互いの人権が尊重されるために必要な配慮や支援について考える。

準備するもの

ワークシート、資料、避難者の状況カード（学習プログラム参加者の実態に応じて選別または追加する）、付箋紙（4色、正方形）、模造紙、マジック

進め方（展開例）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料）
導入 20 分	◆学習の確認（5分） ・研修会のねらい ・日程 ・参加体験型学習における約束 ◆アイスブレイキング（15分） 「ピクトグラムクイズ」 ①自己紹介するとともに、「災害について感じていること」を話す。 ②複数のピクトグラムを見て、何を表しているのかグループで話し合う。 ③ピクトグラムの表す内容を確認する。	・【参加体験型学習の約束】の内容を伝える。 →P 9 ・4人程度のグループで行う。 ・ワークシートを配付する。 ・話しづらい場合は無理に話さなくて良いことを伝え、「災害でつらい経験がある方への配慮」が必要なことに気づかせる。	・ワークシート →P82
<u>ピクトグラムクイズの解答</u> ①広域避難場所 ②避難所（建物） ③津波避難場所 ④津波避難ビル ⑤卵 ⑥更衣室 ⑦飲料水 ⑧浴室 ※⑤は避難者登録カードの中にあり、食べられないものにチェックするためのピクトグラムである。			
・視覚的に分かりやすい「ピクトグラム」は人権への配慮から作られていることに気づく。 ・他の人の気持ちを知ることが、本日の学習につながることを知る。			
展開 60 分	◆アクティビティ1（15分） 「もしも避難所生活になったら… I ～自分自身が避難所生活を送ることになったら～」 ①場面の状況を確認する ②避難所に避難した場合、自分はどのようなことに	・ワークシートの設定を読み、説明する。	・ワークシート →P82

	困るのか考え、付箋紙に記入する。 ③模造紙と付箋紙の使い方を確認する。 ④書いた内容を発表し、付箋紙を模造紙のAのエリアに貼る。	・思いつく困り事や不安感を簡潔に書くことを伝える。 ・模造紙のAエリアに貼るよう伝える。 ・内容が似ていたら近くに貼るよう促す。	・付箋紙 ・模造紙 ・資料 →P84
	・災害発生時には人によって困ることが違うことに気づく。 ・普段は平気でも、災害発生時にはより強い不安やストレスが重なることに気づく。		
	◆アクティビティ2（35分） 「もしも避難所生活になったら…Ⅱ ～立場を変えて考えてみよう～」 ①「避難者の状況カード」をグループで1枚選び、模造紙等の隅に書く。（最初はBのエリア） ②カードの人物の立場で避難所生活を送ることになった場合、どのような困りごとや不安感があるのかを考え、付箋紙に記入する。 ③書いた内容を発表し、付箋紙を模造紙の所定の場所に貼る。（最初はBのエリア） ④続いてC、Dのエリアの順に①～③を繰り返す。（B～Dまで最大3回） ⑤付箋紙を「人の配慮や心がけで軽減できそうなもの」と「物や設備面の充実で解決できそうなもの」に分類する。 ◆振り返り（10分） 「自分自身のことについて書いた内容」と「避難所の状況カード」の立場になって書いた内容を比べ、全体の内容を見てわかったことや気づいたこと、思ったことや感じたことをグループで伝え合う。	・「避難者の状況カード」は、参加者の実態に合わせて選別、作成しておく。 ・模造紙・付箋紙の使い方を説明する。 ・最初はBに付箋を貼っていくと伝える。 ・中央寄りに貼るもの、外側に貼りなおすものに分類するよう伝える。 ・グループ内で話し合ったことを全体で共有する。	・避難者の状況カード →P83 ・付箋紙 ・模造紙 ・資料 →P84
まとめ 10分	◆まとめ（10分） 「私が心がけること」 ・今日の活動をとおして感じたことや、考えたことをワークシートに記入する。 ・全体で共有する。	・自分自身にできることをワークシートに記入してもらう。	・ワークシート →P82
	・人によって必要な支援が違うことに気づき、避難所生活では、お互いのできる範囲での配慮や支援の積み重ねが大切であることを理解する。		

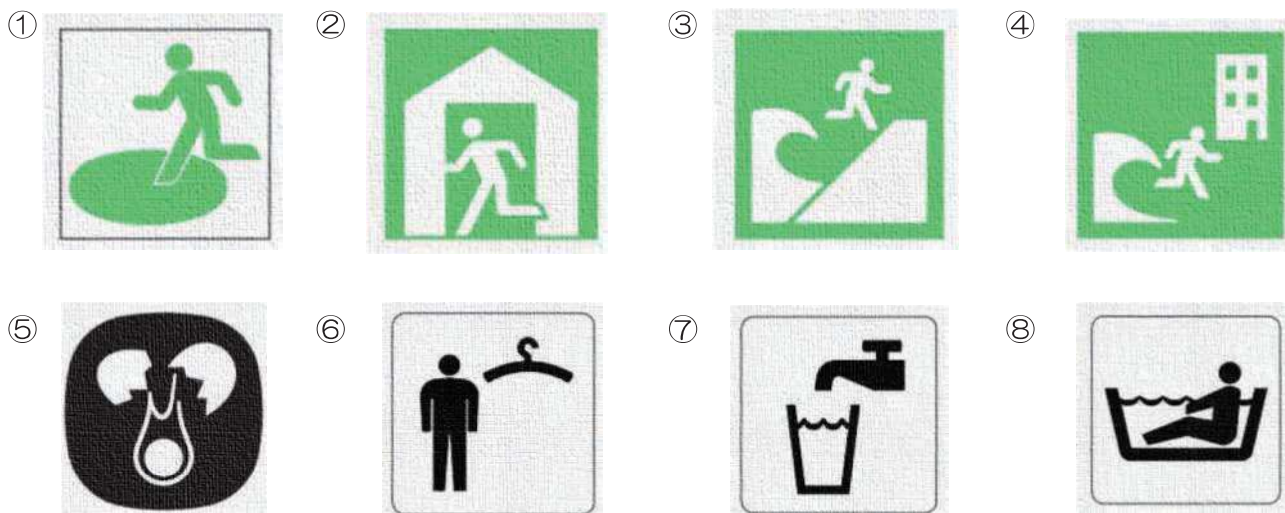
<参考資料など>

「人権ワークショップ2019」 栃木県教育委員会事務局生涯学習課（令和2年3月）

「人権学習ワークシート集 一人権教育実践のために 第15集（小・中学校編）一」

神奈川県教育委員会（平成29年2月）

ピクトグラムクイズ



①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

＜参考資料など＞ 「バリアフリー・ユニバーサルデザイン 案内用図記号」国土交通省ホームページ
「食材の絵文字／FOODPICT」一般財団法人自治体国際化協会

もし避難所生活になったら…

○設定を読みましょう。

12月の寒い日、地震が起きました。自宅は壊れ、中に入ることはできないため、外出先から、そのまま近くの学校に避難することになりました。

学校に着くと体育館に案内され、入り口で毛布1枚、クラッカー1袋、水500mlが一人ひとりに配られました。床に毛布を敷いて座っていると、次々と人がやってきて、体育館はみるみる人でいっぱいになりました。停電と断水のため、夕方になると体育館は真っ暗になり、水道の水は使えませんでした。

不安な夜を過ごし、眠れないまま朝がやってきました。その日は、乾パンと水500mlが配られました。避難から3日目、ようやく家族ごとのスペースに高さ1mの間仕切りができました。さらに、食事の配給が始まり、朝昼晩と食事ができるようになりました。

私が心がけること

○災害発生時に、お互いの人権を尊重するために自分にどのような配慮や心がけができるのでしょうか。今日の活動をとおして感じたことや、考えたことを書きましょう。

妊娠している女性	認知症の妻と二人暮らしの高齢の男性
日本語が話せない 外国人女性	ウイルス性の感染症を 発症している子どもや、 その家族
ペットと乳幼児を連れた 夫婦	心臓に持病を抱える男性
自閉症の息子を連れた女性	トランスジェンダーの人
ホームレスの男性	視覚障がいのある女性

※参加者の実態に応じて、使うカードと使わないカードを選別したり、空欄のカードに新たな状況を記入したりして、切り分けてカードとして使用してください。

模造紙・付箋紙の使い方

(1) 模造紙等について

模造紙等は付箋紙を貼るための台紙となります。

①模造紙等を横長に置き、マジックで十字を書いて4等分します。

また、左上をAとし、時計回りにB、C、Dとして、模造紙等の隅に書いておきます。

A 自分自身	B 妊娠している女性
D ○○○○	C △△△△

A 自分自身
B _____
C _____
D _____

B、C、Dの横には選んだ状況カードの情報を
書いておく。

(妊娠している女性、ホームレスの男性等)

②アクティビティ1

「もしも避難所生活になったら…Ⅰ～自分自身が避難所生活を送ることになったら～」でAを使用します。Aには自分自身の困りごとや不安感を書いた付箋紙を貼っていきます。

③アクティビティ2

「もしも避難所生活になったら…Ⅱ～立場を変えて考えてみよう～」でB、C、Dの順に使用していきます。その際、模造紙のB、C、Dの横に各グループで選んだ状況カードの情報を書いておきます。(妊娠している女性、ホームレスの男性等)

(2) 付箋紙について

①付箋紙一枚につき、1つの内容を書きます。

②書いた付箋紙は、はじめは模造紙のAエリアに、続いてB、C、Dの順に貼ります。

③アクティビティ2の最後に、グループで相談しながら「人の配慮や心がけで困りごとや不安感が軽減できそうな内容」は中央寄りに、「物や設備面の充実で解決できそうな内容」は外側に、付箋紙を移動させます。

